


平成21年度採択

プレ戦略イニシアティブ

<分野> 学際、複合、新領域

 筑波大学 University of Tsukuba



筑波大学
研究戦略イニシアティブ推進機構
Organization for the Support and Development
of Strategic Initiatives

拠点名称：〈知識のコズモロジー〉、あるいは〈わかる〉とはどういうことか —— 〈デザイン〉の多義性を中心として

拠点代表者：人文社会科学部研究科・教授・鷺津浩子

拠点形成活動の概要：

世界的に見ても、現在、人文社会科学系の学問が変革の時期を迎えていることには間違いがない。この変革期にあたって、いわゆる学際研究があげてきた成果を否定するつもりはないが、それがこれまで専門化され細分化された学問領域を前提としてしか成立しないものであることも忘れてはならないだろう。いま必要なのは、むしろ、その専門化され細分化された学問領域じたいの成り立ちを問い直し、これからの学問領域を開拓していくことである。変革期はまた、新しい学問の枠組みが構築される時期でもある。

〈知識〉が世界や宇宙を〈わかる〉ためのものであるならば、〈知識〉とは何か、〈知識〉を形作っているものは、〈知識〉はいかにして構築されるのかを問う必要があるだろう。本研究では、〈知識の枠組み〉という概念を導入することによって、既存の学問分野の独自性（たとえば「文学」対「科学」）に疑義を唱え、いずれも〈知識〉の一形態として〈知識〉全体のなかでの流動性とダイナミズムのなかでの立ち位置を探ろうとするものである。さらには、歴史的な視点を形成することによって、単一世界基準が崩壊した世界での合意形成に寄与することもできよう。

この意味で、今までの知識史を振り返るための〈知識の枠組み〉という概念はきわめて有効であり、またその概念を使って、学問領域の俯瞰図・全体像を描く〈知識のコズモロジー〉には大きな可能性がある。

拠点形成に係る研究活動の概要：

〈知識のコズモロジー〉では、英語では一語で表されるものの、その概念が多岐にわたるキーワードを選択することによって、英語だけでも日本語だけでも把握できない〈ずれ〉を認識し、互いの言語を他の言語のメタ言語として利用している。今回の中心課題〈デザイン〉もまた、この方針で選ばれたものである。

1. 「〈知識〉によって形成されるコズモロジー」のなかの〈デザイン〉

ここでいう〈デザイン〉とは、単なる筋書きや構想を指すのではない。それは、現実や自然現象界を認識し理解することによって構築されるコズモロジーに必要な〈知識の枠組み〉がいかに形成されるかを考察するものである。したがって、この〈枠組み〉がいかに着想され意図され企画されたかを読みとることが、〈デザイン〉の第1の意味となる。

2. 「〈知識〉が構成するコズモロジー」のなかの〈デザイン〉

けれども、〈デザイン〉には設計図としての側面もある。これは、プロジェクト全体の中では「〈知識〉が構成するコズモロジー」にあたり、いわば個別コズモロジーの俯瞰図として、学問知識分野同士の相関関係や知識全体の外観を考察し提示するものとなっている。〈デザイン〉という概念を基軸にして、学問全体の見取り図（たとえば、「文学」と「科学」の立ち位置）を描くことにより、〈知識〉から立ち現れる世界観・宇宙観の俯瞰図、すなわち〈知識〉の全体図を統括する設計図を素描しようというのが、本研究〈デザイン〉の第2の意味となる。

以上のような観点から、当プロジェクトには多分野・多領域の研究者が参加しています。また、異分野・異業種の方のご参加を歓迎します。詳細は、HP：<http://lynxx.hass.tsukuba.ac.jp/>